

# 卒論チェックシート

学籍番号 7535001X 氏名 稲田 一輝

## 目的

卒論本文に関して、以下の項目 1) ～ 5) に関する記述が必要です。5 項目についての記述も卒論評価の 1 部とします。この卒論チェックシートを完成させ、卒論提出前に記入漏れがないことを確認してください。なお、このシートは卒論審査資料の一つとなります。卒論と同様にしっかり完成させ、卒論と一緒に主査と副査へ提出してください。

## 提出方法

1. チェック項目について明確・簡潔に回答を記入する。また、対応記述を含む本文のページ番号を明記する（例：3ページ，3,5,7ページ，3-10ページなど）。全ての項目について回答し、卒論チェックシートを完成させる。
2. 完成した卒論チェックシートを、卒論を収めたファイルの最後尾に綴じる。
3. 主査（1名）と副査（2名）に卒論と卒論チェックシートを綴じたファイルを提出する（従って、卒論とともに卒論チェックシートも3部用意する、卒論チェックシートの記述内容は3部とも同一で良い）。

### 1) 研究の目的・目標を明確に設定できる。（卒論評価項目 1）

【チェック項目】 研究目的・目標を説明してください。

本研究では、部屋の中の環境を総合的な観点からモニタリングし、その感染症リスクを分かりやすく表示でき、かつそれが容易に設置できる感染症予防サポートシステムの作成を目的とした。この目的を達成するために、本研究では、乾電池で動作し、かつ無線でセンサのデータを送信する、従来より設置場所の制約の少ない小型の室内環境値計測デバイスを開発することを目標とする。

本文におけるページ番号： 2

### 2) 人類や社会に望まれ、貢献する研究目標を立てられる。（卒論評価項目 2）

【チェック項目】 論文に示された研究目標が、情報工学を応用し人類・社会に貢献するものであることを説明してください。（社会との関わりなど）

感染症への意識の高まりからくる需要を満たすことができ、それとともに感染症が広がりにくい状況を構築する一助となることが期待できる。

本文におけるページ番号： 1-2

（裏にもあります）

- 3) 研究の目的・目標を実現するための具体的研究方法を示し、実行できる。（卒論評価項目3）

**[チェック項目]** 論文に示された研究方法の具体性や、研究目的・研究目標の達成を目指すためにどのような意味がありそのような研究方法を採用したのか説明してください。

感染症予防サポートシステム全体の開発においては、システムの設計をより洗練されたものとし、かつ短期間で行うことができるよう、グループ（伊藤大輝，稲田一輝，小田恵吏奈，掛水誠矢）で開発を行った。開発工程においてはグループ内での分担，および設計に対する検証を容易に行うためにV字開発モデルに従って行った。また，要求分析，基本設計，詳細設計においてはグループ内での共通認識を図るためUML（Unified Modeling Language）を使用した。

本文におけるページ番号： 2

- 4) 研究の内容が、情報工学技術の発展や応用に貢献するものである。（卒論評価項目4）

**[チェック項目]** 論文で示された研究内容が、情報工学技術の発達や応用に貢献するものであることを説明してください。（研究内容の新規性など）

様々な場所の感染リスクや環境値の変動を収集できることは、人の移動の予想やよりよい感染症予防のガイドラインの制定にも応用が可能であると考えられる。

本文におけるページ番号： 43

- 5) 卒業論文，卒業論文発表において，卒業研究の目的・目標，研究方法，研究成果が論理的に述べられる。（卒論評価項目6）

**[チェック項目]** 論文で示された研究成果について説明してください。

本研究の目的である，乾電池で動作し，かつ無線でセンサのデータを送信する，従来より設置場所の制約の少ない小型の室内環境値計測デバイスを開発することについては，導入の容易さという面で改善の余地があるものの，達成することができた。

本文におけるページ番号： 42

**[チェック項目]** 卒業研究の目的・目標，研究方法，研究成果がどのような章立てで述べられているか説明してください。

第1章では本研究の目的・目標および研究方法について述べる。

第2章では本研究で用いる用語や研究方針，本システム全体の概要について述べる。

第3章ではV字開発モデルに従った本システムの設計について述べる。

第4章では，感染症予防サポートシステムとしての環境値収集デバイスの実装と検証結果について述べる。

第5章では実装・検証した本システムの評価を行い，考察を示す。

第6章では本研究のまとめを述べる。

以上